

(体育科)

**運動する楽しさやできる喜びを味わいながら  
ともに伸びあう子どもを育てる**

大阪市立淡路小学校 研究部

**(1) 研究にあたって**

学習指導要領体育科は、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」ことを目標としている。これは、「運動する子どもとそうでない子どもの二極化」「深刻な体力の低下傾向」「運動に親しむ資質や能力が十分でない状況」という体育科の今日的課題を受け、その改善を目指すものであるととらえている。

本校における児童の実態でも、二極化がみられる。これは、休み時間に運動する児童と運動しない児童というような、時間的運動量の問題だけではなく、運動の種類についても言える。

このような現状を受け、運動量のみならず、さまざまな種類の運動に対して興味を持ち、楽しく経験させることで、体力の向上や運動に親しむ資質や能力を育てることをねらいとして、本研究主題を設定した。また、児童個人の体力の向上や運動に親しむ資質や能力の育成にとどまらず、児童同士がともに励ましあい、その成長を認め合えるような集団の育成をも目指すものである。

本研究にあたっては、以上のようなねらいを受け、以下の4点を研究の柱に据えた。

**(2) 指導方法の工夫**

**① 自ら運動の課題の解決を目指す活動を行えるようにする工夫**

自分の課題をみつけたり、友達の動きを評価したりする活動を大切にし、運動の場や用具などを変えながら、課題に取り組ませることを大切にした。また、自分の運動技術の向上が確認でき、自分の能力に応じた練習方法で、楽しみながら取り組むことができるよう心がけた。

**② 発達の段階を考慮した児童への関わり方の工夫**

難しすぎる課題や、逆に簡単すぎる課題を設定してしまうと、学習に対する興味だけでなく、学習を継続しようとする意欲までも失われてしまう。子どもたちの興味や能力に合った課題を持たせることで、飽きることなく意欲的に学習に挑戦することができると考え、子どもたちの実態や能力に応じた学習内容や指導計画を設定した。

**③ 児童が互いに関わり合いを深めつつ学習が進むようにする工夫**

集団の中での役割を自覚して学習を進めることや、考えて行動することを大切にする集団の中で、運動する充実感や達成感を味わえる活動を重視した。また、仲間との交流を通して、仲間と歩調を合わせたり、支え合った

りして共に学ぶ楽しさを感じ、仲間のよさを認め合う活動を取り入れるようにした。そうすることで、積極的に集団で課題に取り組む姿勢が生まれ、評価し合ったり、励まし合ったりする子どもを育てたいと考えた。

#### ④ 基礎となる感覚を身につけるとともに、運動への興味や関心を高めるようにする工夫

易しい場の設定で成功体験を繰り返すことで、できるようになる楽しさを味わわせ、次の段階に挑戦する意欲を持たせた。そして、次の段階に進んでいくことで、友達と競争する楽しさや動きを工夫する課題意識を持たせた。そのために、基礎となる感覚を段階的に習得できる運動遊びを積極的に取り入れた。

また、運動好きの子どもを育てるため、仲間と一緒に運動したり、支え合う楽しさを味わわせ、運動することで心が軽くなったり、リラックスできたりすることに気づかせることを意識していくようにした。

### (3) 成果と課題

#### 1. 成果Ⅰ（児童の変容）

- 一人一人がめあてを持って課題解決に取り組み、「楽しく運動することができた」「上手にできるようになった」「作戦が成功した」などの爽快感や達成感、成就感を味わうことができた。
- 友達同士で協力し合い、互いに広め教え合ったり励まし合ったりする活動を通して、友達のよさや頑張りにも目を向けることができ、ともに学び伸び合う集団へと育っていった。

#### 2. 成果Ⅱ（授業実践や学習環境への取り組み）

- 学年の実態に合った題材や場面設定を工夫することで、身につけさせたい運動や動き、教具の開発や場の設定などについて教材研究し明らかにしたり改善したりすることができた。
- めあて→活動→評価→新しいめあてと連動するように学習カードや指導計画を工夫した結果、個々の児童の動きの高まりやつまずきが把握しやすく、その後の支援に役立てることができた。

#### 3. 課題

- 今回の取り組みではICT機器の活用がほとんどできなかった。今後はICT機器の効果的な活用を図り、自らの動きをふり返ったりよい動きを広めたりできるようにしていく必要がある。
- 児童の心身ともに健康な生活を送るための体づくりや体力向上にさらに努め、また体育授業の実践が児童の運動への関心意欲を高めて、自らの体力や健康の保持増進にまで意識して生活に生かせるよう、指導内容と指導方法の工夫について研究を進めていくことが大切である。